

INDEX

P.1

・「PRIDE指標2024」3年連続ゴールド認定獲得

P.2

・第10回 Rikoh ティータイムシンポジウム
・ボラリス・学生交流公開講座
・2024年度 男女共同参画・ダイバーシティの推進プロジェクト講演会

P.3

・WASEDA LGBTQ+ ALLY WEEKS 2024
・ダイバーシティ関連イベント (WDE) のご紹介
・ダイバーシティ関連科目のご紹介
・2024年度活動報告

P.4

・連載 ワークライフバランス挑戦中! ⑪
「想定外」が「ふつう」だった子育て
・募集しています!
・「早稲田大学UD (ユニバーサルデザイン) マップ」(第9版)
・「UDトーク」
・「ダイバーシティ関連工事・改修状況」

Topics

「PRIDE指標2024」3年連続ゴールド認定獲得

2024年11月14日、本学のLGBTQ+に関する取り組みが、一般社団法人「work with Pride」が策定する職場におけるLGBTQ+に関する取り組みの評価指標「PRIDE指標2024」において、「ゴールド認定」を獲得しました。

本学では2017年の「早稲田大学ダイバーシティ推進宣言」において、「性別、障がい、性的指向・性自認、国籍、エスニシティ、信条、年齢などにかかわらず、本学の構成員の誰もが、尊厳と多様な価値観や生き方を尊重され、各自の個性と能力を十分に発揮できる環境」の実現を目指すことを宣言しました。

これまでに、「だれでもトイレ」の設置、人事諸制度における婚姻と同様の事情にあるパートナーへの制度適用、教職員向け関連研修の実施、さらにはダイバーシティ推進室とジェンダー・セクシュアリティ・センター (GSセンター) との連携によるイベントの開催、LGBTQ+に関するガイドブックの発行等を通じて、継続的にその取り組みを進めてきました。この結果として、「PRIDE指標2022」から3年連続での「ゴールド認定」を獲得することができました。

今後も本学では、多様な人材が活躍できる職場環境づくりと、性的指向・性自認等についての理解促進に努めてまいります。



▲授賞式会場にて表彰状を手に (ダイバーシティ推進室長 石田京子法学学術院教授)

▲認定ロゴマーク

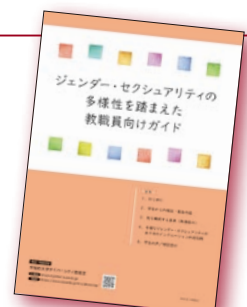
【PRIDE指標について】

「PRIDE指標」は、LGBTQ+など性的マイノリティが働きやすい職場づくりを日本で実現するために「work with Pride」が2016年に策定した日本で初めてとなる LGBTQ+に関する企業・団体等の取り組みの評価指標です。Policy (行動宣言)、Representation (当事者コミュニティ)、Inspiration (啓発活動)、Development (人事制度・プログラム)、Engagement/Empowerment (社会貢献・渉外活動) の5つの指標で構成されており、各指標内で所定の要件を満たしていれば点数が付与され、点数により、ゴールド、シルバー、ブロンズとして企業・団体が認定されます。

「ジェンダー・セクシュアリティの多様性を踏まえた教職員向けガイド」を発行しました

多様な学生が安心して学業・大学生活に専念できるよう、ジェンダー・セクシュアリティに関する理解を深め、当事者の気持ちに寄り添い、適切な対応を行うために「ジェンダー・セクシュアリティの多様性を踏まえた教職員向けガイド」を2025年3月に発行し、2025年度の授業開始に向け全教職員に配付します。

詳細は <https://www.waseda.jp/inst/diversity/support/sexual-minority/> よりご覧いただけます。内容に関するご意見等は、ダイバーシティ推進室までご連絡ください。



第10回 Rikohティータイムシンポジウム

「ライフ・イズ・ビューティフル～人生、仕事も家庭も楽しみたいあなたに！先輩のリアルな体験をヒントにしませんか？～」

Webサイトで詳しく▶



2024年11月13日、対面・オンラインあわせて45名の方にご参加いただき「Rikohティータイムシンポジウム」を開催しました。本イベントは理工学術院の若手研究者・学生のキャリアプラン、ライフプランを考える場の提供と、研究意欲向上に有効なネットワーク醸成を目的として毎年開催しています。第10回目となる今年は、事前にニーズ把握のためのアンケートを実施し、最も要望が多かった「ライフイベント（結婚・出産・育児など）と仕事を両立して企業で活躍されている方」にス



▲第1部基調講演の様子



▲第2部パネルディスカッションの様子

ポットライトを当て、「ライフ・イズ・ビューティフル」をテーマに、本学理工学術院卒業生3名に講師としてご登壇いただきました。

高山あかり准教授（理工学術院）の司会進行のもと、第1部の基調講演では各講師から出産・育児に関する体験や考え方を中心にお話いただき、所属先企業の支援制度の紹介や、仕事とライフイベントとの両立のコツなど、実践的なアドバイスもいただきました。第2部のパネルディスカッションでは、事前に寄せられた質問や参加者からの質問に講師の皆様にお答えいただきながら交流を深めました。

(講師)

- ①三菱重工業（株） 柴田 晶羽 様
（2015年 大学院基幹理工学研究科 機械科学専攻修士課程修了）
- ②日清紡ホールディングス（株） 松坂 恵里奈 様
（2005年 大学院理工学研究科 応用化学専攻修士課程修了）
- ③（株）ベネッセコーポレーション 和田 武訓 様
（2009年 理工学部化学科卒業）

ポラリス・学生交流公開講座

「共生社会の実現にむけて～障がい者のはたらく場から考える～」

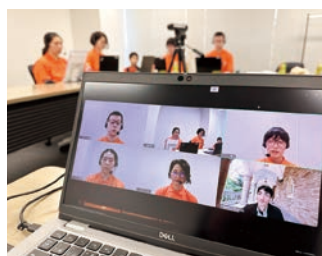
Webサイトで詳しく▶



2024年12月6日、前年に続き、本学の特例子会社^(注)である株式会社早稲田大学ポラリスの皆様をゲストスピーカーに、社会科学総合学術院の寺尾範野准教授をファシリテーターにお招きし、公開講座をオンラインにて開催し、本学学生、教職員77名が参加しました。

同社の伴マネージャーによる事業概要説明および1日の様子をまとめた動画視聴の後、障がいのあるスタッフの方々から、日々の業務内容や業務に取り組む際の努力や工夫、趣味や充実した日常生活等についても語られました。時間が足りなくなるほど参加者より多くの質問も届き、生の声を聴くことで障がいに対する認識や心構えを深めてもらった時間でした。共生社会のあり方を、あらためて考えるよい機会となりました。

(注) 障がい者の雇用促進および安定就労を目的として事業主（大学）が設立した子会社



▲公開講座の様子



▲(左より) 齋藤さん、伴マネージャー

2024年度 男女共同参画・ダイバーシティの推進プロジェクト講演会

「共生社会の実現に向けて～世界を知るパラアスリートが感じた現在地と課題～」

Webサイトで詳しく▶



2024年12月16日、本学卒業生のパラアスリート、多川知希さんをお招きし、対面・オンラインで開催し、学内外から60名ほどの参加がありました。ご自身の競技経験やパラリンピック3大会に出場した際のお話を中心に、楽しいエピソードも交えながら和やかな雰囲気



▲リオパラリンピックの際の銅メダル



▲公演中の多川さん

講演会となりました。

当日は、リオパラリンピックの際の銅メダルやユニフォームも披露していただき、会場参加者は銅メダルに直接触れられる機会もいただきました。過去の悔しさから諦めずに最後まで走り続けた結果、獲得できた銅メダルなのだそうです。リオパラリンピックのメダルは、振ると、金・銀・銅、それぞれ違った音が鳴るといふ工夫も施されているそうです。また、多川さんは、現在所属されているチームではキャプテンを任されており、チームメイトには知的障がいや脳性麻痺の選手もいたり、まったく障がいのない健常者の選手もいて、それぞれが自分の目標に向かって競技をしているので、このチームこそが共生社会を実現できているのではないかと語ってくださいました。

講演後には大学院まで在籍した研究室の教授よりサプライズの花束贈呈があったり、研究室の有志の皆さんから会場に祝い花が届いたり、多川さんのお人柄があらわれたとても華やかな講演会でした。



ジェンダー・セクシュアリティセンター（GSセンター）では、WASEDA LGBTQ+ ALLY WEEKS 2024を2週間にわたって開催しました（11/25（月）～12/6（金））。

本イベントの開催趣旨は、早稲田大学に関わりのある一人ひとりのLGBTQ+の当事者が自身の力を認識できる場づくりとアライ（※参照）の存在の可視化を通して、性のあり方に関わらず、誰もが過ごしやすい大学にすることを目的としています。

本イベントでは、ゲスト登壇、ワークショップ、4キャンパス内のパレードをGSセンターの学生スタッフが企画・運営を行い、本学におけるアライの在り方などについて考えました。開催報告は、GSセンターWebサイト等でご確認ください。

※アライ（Ally）とは、「自らの特権を自覚したうえで、その特権を進んでリソースとしてLGBTQ+とその関連コミュニティの公正に向けた取り組みに活用し、これらの活動を支援する人」だと、GSセンターでは認識しています。



本学はダイバーシティ推進室とスチューデント・ダイバーシティ・センターが連携し、全学的な視野でダイバーシティの実現に取り組んでいます。その一環として「学生・教職員等のダイバーシティ推進に対する

全学的な意識向上」を目的にさまざまな講演会、セミナー、交流会等の各種イベントを開催しています。ダイバーシティ推進室Webサイトに学内イベント情報を集約し紹介していますので、ぜひ参考にしてください。



ダイバーシティへの理解を深めるための推奨科目の一覧を「ダイバーシティ関連科目」としてダイバーシティ推進室Webサイトにおいて科目リストと検索キーワードを紹介しています。

ダイバーシティへの理解を深める科目で、オープン科目として開講

している科目をダイバーシティ推進室にご紹介ください（自薦、他薦は問いません）。

ダイバーシティ推進室Webサイト上の「ダイバーシティ関連科目」に掲載し、広報させていただきます。

2024年度活動報告

氏名は50音順、◎委員長 ○副委員長 ◆部会長 ◇副部会長
（掲載の委員・部会委員は2025年1月31日現在）

ダイバーシティ推進委員会

任期満了に伴い、2024年9月21日付けで、新たに委員・部会委員が選任されました。ダイバーシティ推進委員長には、石田京子法学学術院教授が再任されています。

2024年3月に公表した「早稲田大学のダイバーシティ推進に関する意識・実態アンケート」の結果も踏まえ、引き続きダイバーシティに関する施策を実行していきます。

委員 秋葉文志（スチューデント・ダイバーシティ・センター長／国際学術院准教授）・東玲奈（国際学術院准教授）・天野紀明（理事（職員人事、労務））・◎石田京子（法学学術院教授）・エルウッド ケイト（国際部長／商学学術院教授）・扇原淳（人間科学学術院長／教授）・○大久保裕子（学生部事務副部長兼保健センター事務長）・大坪恭子（人事部長）・大場浩之（教務部長／法学学術院教授）・岡崎成光（学生部学生寮担当課長兼スチューデント・ダイバーシティ・センタージェンダー・セクシュアリティ担当課長）・佐久間由梨（教育・総合科学学術院教授）・佐藤洋一（社会科学総合学術院長／教授）・地主成美（スチューデント・ダイバーシティ・センター障がい学生支援担当課長）・篠原初枝（理事（ダイバーシティ推進、国際広報、国際学生寮WISH）／国際学術院教授）・城座俊輔（学生部学生生活課長兼スチューデント・ダイバーシティ・センター課長）・竹迫寿（人事部調査役（業務構造改革・ダイバーシティ推進担当））・○谷口真美（商学学術院教授）・玉田正樹（留学センター事務長）・戸川望（理工学術院長／教授）・藤本浩志（人間科学学術院教授）・三浦暁（総務部長）・矢内義顯（学生部長／商学学術院教授）・柳澤明（文学学術院長／教授）

教育研修部会

ダイバーシティ関連科目の案内、人事課協働「職場復帰後セミナー」を実施の他、「埼玉 ALLY ネットワーク」に参画しました。理工学術院・キャリアセンター・ジェンダー研究所と連携したイベントを実施し、ポラリスと学生の公開講座も開催しました。

部会委員 朝日透（理工学術院教授）・◆東玲奈（国際学術院准教授）・宇羽野聡（総務部総務課長）・杉森絵里子（人間科学学術院准教授）・高山あかり（理工学術院准教授）・豊田真穂（文学学術院教授）・◇藤沢健（学生部調査役／アクセシビリティ支援担当）・ローリー ゲイ（法学学術院教授）

制度環境部会

企画建設課、スチューデント・ダイバーシティ・センターと連携してバリアフリー改修が必要な施設情報を収集し、軽微な改修は工事依頼、大規模な改修は2025年度予算申請を行うことで工事改修への対応を進めました。2024年度に実施した自動扉化工事などの位置情報はUDマップにも反映していきます。

部会委員 岡崎成光（学生部学生寮担当課長兼スチューデント・ダイバーシティ・センタージェンダー・セクシュアリティ担当課長）・城座俊輔（学生部学生生活課長兼スチューデント・ダイバーシティ・センター課長）・鈴木理恵子（法学学術院教授）・竹迫寿（人事部調査役（業務構造改革・ダイバーシティ推進担当））・陳天璽（国際学術院教授）・◆藤本浩志（人間科学学術院教授）・◇松尾亜弓（総長室長兼本庄プロジェクト推進室長）・村田晶子（文学学術院教授）

広報調査部会

「さんかくニュース」No.32、33を企画・編集し、発行しました。No.32では、2024年6月に実施した仕事と介護の両立支援セミナーを報告し、また次世代育成推進法に基づく一般事業主行動計画策定を報告しました。

部会委員 青木由里子（アジア太平洋研究科・アジア太平洋研究センター事務長）・◇尾崎慶吾（グローバル・エデュケーション・センター事務長）・末松大（国際部国際課職員）・◆玉田正樹（留学センター事務長）・山内暁（商学学術院教授）

「想定外」が「ふつう」だった子育て

文学学術院 教授 石田 光規

私の子どもは第一子が9歳、第二子が7歳なので、さすがにもう育児期は通り過ぎていて、51年も生きているので、子育て以外にもいろいろと経験してきたけれど、育児の記憶は今も鮮明に残っている。あまりに衝撃的だったので、一冊の本を出してしまったほどだ。そこで、この短い論考では、あらためてこれまでの研究を振り返り、子育てに対する目線のあり方について考えてみたい。



子育ての研究をしていて衝撃的だったのは、いわゆるアンケート型の社会調査から得られたイメージと、当事者が語る現状のギャップである。私は松戸市で2020年に出産した母親に、質問紙調査と聞き取り調査を行った。その結果が実に興味深かったので簡単に紹介したい。

質問紙調査では母親の幸福感や子どもを産んでよかったと思う頻度を尋ねた。その結果、幸福感については「ひじょうに幸せ」50%、「やや幸せ」48.6%、「あまり幸せでない」1.4%、「まったく幸せでない」0%、子どもを産んでよかったと思う頻度は「なんどもあった」95.9%、「ときどきあった」4.1%、「ごくまれにあった」と「まったくなかった」は0%であった。つまり、調査対象のほぼ全員が幸せと答えており（98.6%）、子どもを産んでよかったと思う瞬間が何度もあったと答えているのである（95.9%）。

これまでの研究生活でいろいろな社会調査を見てきたが、これほど多くの人が幸福を感じ、肯定的な意見を答える調査を見たことがない。しかも、この傾向は、松戸市の出生率の高い地区に住み、2020年に出産した母親全員に対して行った調査でも同様であった。つまり、サンプルの偏りによる影響ではなかったのである。この結果を受けて、それくらい子どもの誕生は幸せなことであり、母親にプラスの影響をもたらすものなのだと改めて感じていた。

しかし、質問紙調査の回答者に聞き取りを実施すると、統計で示された幸せのイメージは一変した。母親たちの語りから得られたのは子育ての幸せではなく、日々の子育てがいかに綱渡り的に維持されているかという、リアルな実情であった。日々の予定も立てられず、数分単位で変わる現実に慌ただ



しく対応する。しかも、発生する現象は今まで体験したことのないものばかり。混乱して途方に暮れているうちに、一日、一週間、一ヶ月と過ぎていく。そんな現実がため息とともに語られたのである。

たしかに僕もそうだった。日々「ままならない」現状に叫びそうになりながら対処し続けた。乳児をお風呂に入れるには、「入れる人」と「受け取る人」の二人が必要だ、など素朴な事実気づいたのも子育てが始まってからである。とはいえ、当時アンケートで「今幸せか」と聞かれれば、「幸せ」と答えてしまうだろう。そこに私たちの見落としがちな子育ての「真実」がある。

子育ては日本に住む多くの人が経験するという意味では「ふつう」であり、また、子どもの誕生は未だ幸せなイメージで彩られている。それはそれで悪いことではない。やはり、子どもの誕生や子育ては幸せであってほしい。他方、「ふつう」の子育てをしているそれぞれの家庭の日常は、「想定外」の繰り返しで構成されている。つまり、「ふつう」と「想定外」が交錯するのが子育てなのだ。

そこで、「ふつう」に焦点を当てると、「ふつう」の人が当たり前にならざるを得ない子育てをできない自分を責めてしまったり、「ふつう」のことなのだから愚痴をこぼしてはいけないと不満を押さえ込んだりしてしまう。周りの人も、親が子育てをするのは「ふつう」なのだからしっかりと、と厳しい視線を注ぐようになる。

そうならないためには、私たちは「想定外」の部分に目を向ける必要がある。いま「想定外」の事態にいるのだから、もっと周りを当てにしてよい。当事者も周りの人もそう考えられるようになれば、子育ての環境はもっとよくなるだろう。



■ 略歴：早稲田大学文学学術院准教授を経て、2016年4月より同学術院教授。2010年第7回日本労働社会学会奨励賞を受賞。【「ふつう」の子育てがしんどい】の他、【「友だちがしんどい」がなくなる本】【「友だち」から自由になる】等、多くの書籍を執筆、出版。

募集しています！

「ワークライフバランス」に取り組んでいる、または取り組もうと考えている教職員をご紹介いただけませんか？（自薦他薦は問いません）育児に限らず、趣味、学び、介護、ボランティア、推し活など、自分時間の使い方、仕事以外で力を入れていることをご紹介ください。ぜひダイバーシティ推進室までお知らせください。

INFORMATION

「早稲田大学UD（ユニバーサルデザイン）マップ」(第9版)

バリアフリーや保育関連施設等に関する最新情報を掲載した第9版を新年度から配布できるよう作成を進めています。

「UDトーク」

ARCで聴覚障害学生の授業支援ツールとして活用しているUDトークを、大学行事・イベント等でも利用できるよう検討を進めています。具体的な運用方法が決定次第、ダイバーシティ推進室Webサイト等でご案内いたします。

「ダイバーシティ関連工事・改修状況」

- ・所沢キャンパス内に「礼拝のできるスペース」を開設
- ・3号館車椅子用（4号館側）スロープ踊り場水はけ対応修繕
- ・「だれでもトイレ」の表示改修（日本橋キャンパスほか複数箇所）

編集・発行

早稲田大学ダイバーシティ推進室

〒169-8050 東京都新宿区戸塚町1-104

e-mail : diversity@list.waseda.jp

URL : <https://www.waseda.jp/inst/diversity/>

Web

